



伊豆大島で撮影されたフサカサゴ科の稀種ハタタテカサゴ： 国内における八重山諸島以外からの初記録および本種の北限記録

本村浩之¹・有馬啓人²

Author & Article Info

¹ 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）
 motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp (corresponding author)
² 伊豆大島ダイビングセンター（大島町）
 d30860@gmail.com

Received 21 February 2021
 Revised 22 February 2021
 Accepted 23 February 2021
 Published 24 February 2021
 DOI 10.34583/ichthy.5.0_29

Hiroyuki Motomura and Hirohito Arima. 2021. *Iracundus signifer* Jordan and Evermann, 1903 (Scorpaenidae) from northern Izu-oshima island, Izu Islands, Japan: first record from outside Iriomote-jima island in Japanese waters and the northernmost record for the species. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 5: 29–31.

Abstract

An underwater photograph of *Iracundus signifer* Jordan and Evermann, 1903 (Scorpaenidae) was taken at a depth of 32 m off Izu-oshima island, Izu Islands, Japan, on 14 Jan. 2021. The species, widely distributed in the Indo-Pacific Ocean from South Africa to Polynesia, has been recorded only from Iriomote-jima island, Yaeyama Islands, southern Ryukyu Islands in Japanese waters. Therefore, the Izu-oshima individual represents the first Japanese record from outside Iriomote-jima island and the northernmost record for the species.

フサカサゴ科の一種、*Iracundus signifer* Jordan and Evermann, 1903 はハワイ諸島オアフ島から得られた1標本に基づき新種として記載され、その後、インド・太平洋広域から散発的に報告されている（Randall, 2007; Fricke et al., 2021）。本種は背鰭第1–3背鰭棘間の鰭膜にある黒色点を眼、第1, 2背鰭棘間を口のように動かし、小魚にみたてて他の魚をおびき寄せて捕食すると考えられていたが（Shallenberger and Madden, 1973）、実際には小魚というより、特異的な棘の動きによって餌となる魚がおびき寄せられるとも推測されている（瀬能・矢野, 2001）。このような背鰭の形態を有し行動する魚は同科他属では知られていないため、本種の標準英名には「おとり」カサゴを意味する Decoy Scorpionfish が使われている。

国内では岸本（1984）によって西表島産の1標本（体長 65 mm）が *I. signifer* の日本からの初めての記録として

報告され、新標準和名ハタタテカサゴが提唱された。その後、2000年9月に西表島の網取湾の水深 50 m で2個体が撮影され、瀬能・矢野（2001）によって報告された。2001年以降、ハタタテカサゴの国内からの報告はなかったが、2021年1月に伊豆大島から本種に同定される個体の水中写真が撮影された。同写真はハタタテカサゴの国内における西表島以外からの初めての記録となるとともに、本種の北限記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

ハタタテカサゴの水中写真（KAUM-II. 94）は第2著者によって2021年1月14日に伊豆大島北部秋ノ浜（東京都大島町泉津秋之原）の約 200 m 沖合（34°47'11.5"N, 139°24'31.9"E）の水深 32 m の岩礁域で撮影された。本報告に用いた水中写真と標本は鹿児島大学総合研究博物館（KAUM）の画像データベース（KAUM-II）および神奈川県立生命の星・地球博物館（KPM）の魚類写真資料（KPM-NR）と魚類標本（KPM-NI）として登録されている。なお、KPMの資料番号は、博物館のデータベース上で0を含めた7桁の数字で表記される（例えば、KPM-NR0012345）。標準体長は体長または SL と略記した。頭部の棘の名称は尼岡（1984）と本村ほか（2004）にしたがった。水中写真を同定する際にハワイ産のハタタテカサゴ2標本（KPM-NI 4426, 体長 87.6 mm；KPM-NI 4427, 体長 82.4 mm）を比較用に用いた。

結果と考察

同定 ハタタテカサゴ属 *Iracundus* Jordan and Evermann, 1903 は、体が強く側扁せず、体高が低いこと、背鰭棘数が12であること、体長 6 cm 以上の若・成魚の背鰭第4棘が伸長すること、口蓋骨に歯がないこと、黒色点（眼状斑）が背鰭第1–3棘間の鰭膜にあること（ここまでの形質は Poss, 1999 や中坊・甲斐, 2013 でも記載）、涙骨隆起に棘がないこと、後頭窩がないこと、および眼下骨棘が1本であることからフサカサゴ科の他属と容易に識別される（本村, 未発表）。特に伸長する背鰭棘と背鰭第1–3棘間の



Fig. 1. Underwater photograph of *Iracundus signifer* (ca. 4 cm SL; KAUM-II. 94) taken by H. Arima at depth of 32 m off Izu-oshima island, Izu Islands, Japan, on 14 Jan. 2021.

鰭膜にみられる黒色点は本科の中で本属に固有の形質である。本属は単型属であり、上記属の特徴が種の特徴でもある。

伊豆大島の写真個体 (Fig. 1) は、体長約 4 cm で、背鰭第 4 棘が伸長し始めた段階であると思われる。また、背鰭第 2, 3 棘間の鰭膜に明瞭な黒色眼状斑があるため、本個体はハタタテカサゴ *I. signifer* に同定された。背鰭以外の体型・色彩はオニカサゴ属 *Scorpaenopsis* Heckel, 1837 に酷似するが、写真個体は涙骨隆起に棘がないこと、後頭窩がないこと、および眼下骨棘が 1 本であることからオニカサゴ属 (特徴は本村ほか, 2004 を参照) と識別される。

分布 ハタタテカサゴは南アフリカ共和国東岸からポリネシア全域にかけてのインド・太平洋広域に分布するが (Randall, 2007; Allen and Erdmann, 2012; Fricke et al., 2021), 記録は散発的で、多くは島嶼域から記録されている。紅海やインド洋北部からの記録はない。日本国内からは 1 標本 (岸本, 1984) と水中写真 (2 個体 KPM-NR 38852: 瀬能・矢野, 2001) がいずれも西表島からのみ報告されていた。伊豆大島で撮影された写真は、本種の国内における西表島以外からの初めての記録であり、同時に本種の北限記録となる。

本種は水深 10–70 m (Poss, 1999), 20–30 m (Randall, 2007), 50 m (瀬能・矢野, 2001), 97–110 m (Struhsaker, unpub. PhD thesis in Randall, 2007) から記録されており、やや深い水深を好むようである。伊豆大島では水深 32 m で撮影された。なお、伊豆大島の撮影個体を採集すべく、第 2 著者とその同僚による同島周辺海域における調査が行われたが、その後、本種は確認されていない。

日本産標本 岸本 (1984) によって報告された西表島

産の 1 標本 (体長 65 mm) がハタタテカサゴの日本から得られた唯一の標本である。本標本は東海大学 (IORD) に所蔵されていたが、2005 年に国立科学博物館に移管された (松浦啓一氏, 私信)。しかし、移管されたのは本標本が入っていた標本瓶のみで、標本自体は移管前に IORD から貸し出されていたようである (中江雅典氏, 私信)。貸し出しに関する書類や記録もないため、現時点の標本の所在は不明である。

謝 辞

西表島標本の情報をくださった宮本 圭氏 (沖縄美ら島財団総合研究センター)、瀬能 宏氏 (KPM)、および中江雅典氏・松浦啓一氏 (国立科学博物館) に感謝する。本研究の一部は JSPS 科研費 (20H03311), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型、および文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」の援助を受けた。

引用文献

- Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2012. Reef fishes of the East Indies. Vols. 1–3. Tropical Reef Research, Perth. xiii+1292 pp.
- 尼岡邦夫. 1984. フサカサゴ科, p. 296. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編) 日本産魚類大図鑑 (解説). 東海大学出版会, 東京.
- Fricke, R., W. N. Eschmeyer and R. van der Laan (eds.) (2021) Eschmeyer's catalog of fishes: genera, species, references. <http://researcharchive.calacademy.org/research/ichthyology/catalog/fishcatmain.asp> (14 Feb. 2021).
- 岸本浩和. 1984. ハタタテカサゴ (新称) [ハタタテカサゴ属 (新称)], p. 303. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編) 日本産魚類大図鑑 (解説). 東海大学出版会, 東京.
- 本村浩之・吉野哲夫・高村直人. 2004. 日本産フサカサゴ科オニカサゴ属魚類 (*Scorpaenidae: Scorpaenopsis*) の分類学的検討. 魚類学雑誌, 51: 89–115.

- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013. フサカサゴ科 Scorpaenidae, scorpionfishes, pp. 683–705, 1939–1946. 中坊徹次（編）日本産魚類検索全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Poss, S. G. 1999. Scorpaenidae. Scorpionfishes (also, lionfishes, rockfishes, stingfishes, stonefishes, and waspfishes), pp. 2291–2352. In Carpenter, K. E. and V. H. Niem (eds.) FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 4. Bony fishes part 2, Mugilidae to Carangidae. FAO, Rome.
- Randall, J. E. 2007. Reef and shore fishes of the Hawaiian Islands. Sea Grant College Program, University of Hawai'i, Honolulu. xiv + 546 pp.
- 瀬能 宏・矢野維幾. 2001. 今月の魚 ハタタテカサゴ. 伊豆海洋公園通信, 12 (7): 1.
- Shallenberger, R. J. and W. D. Madden. 1973. Luring behavior in the scorpionfish, *Iracundus signifer*. Behaviour, 47: 33–47.